



### 社会人大学院を終えて～そしてこれから～

岩美町国民健康保険岩美病院 渡部 純(鳥取 35 期)

#### 【はじめに】

近年ジェネラルマインドによる地域医療の診療だけでなく、アカデミックジェネラリストの視点を持つことの重要性が注目されている。私はアカデミックジェネラリストの視点を持つために、自治医科大学社会人大学院(学外)で学位を取得し経験したことを報告する。



#### 【大学院入学の経緯～JMS コホートとの出会い～】

私は自治医科大学を卒業後、地元の鳥取県立中央病院で2年間初期研修をし、3年目から3年間地域の岩美病院に赴任した。地域医療をしながらも何か研究したいという気持ちはあったが、何をどうすればいいのか分からなかった。その中で、JMS コホート研究の責任者であり、硬式庭球部の先輩である石川鎮清先生と鳥取県で自治医科大学社会人大学院を卒業した鳥取市立病院の懸樋英一先生とのお二人に誘われて医師4年目の時にJMS コホート研究会に参加したことで更に研究意欲が高まった。地域医療で健診・検診に従事する中で、心血管疾患リスクであるメタボリックシンドローム(MetS)に重点を置いた一次予防の特定健診と、悪性腫瘍の早期発見の二次予防を目的としたがん検診を有効活用することが重要だと考え、MetS と悪性腫瘍との関係を調べたい旨を石川先生に相談した。研究生と大学院生とのどちらの立場で研究するかについては、学費支払いによる研究意欲維持と4年間というべ切効果を狙って、研究テーマがある程度決まっていたこともあり、医師5年目の時に社会人大学院に入学することを決意した。地元の大学院は基礎研究が主で実験室に通えないことと研究テーマの解決方法の観点から、自治医科大学の大学院を選択した。

#### 【大学院研究成果】

MetS と悪性腫瘍死亡との関係を調べた研究(1)では、JMS コホート I 研究対象者 12,490 人のうち 11,523 人(男性 4,495 人、女性 7,028 人)を解析対象とした。日本の MetS は、18.5 年の追跡期間で、女性において悪性腫瘍死亡、特に結腸直腸癌、乳癌死亡を増加させた。また、MetS の要素が増えると悪性腫瘍死亡は増加した。先行研究と比べ、40 歳未満の若い世代を除外した感度解析でも同様の結果であることを示したことと BMI を実測していることが強みである。これらの結果は、MetS の人は悪性腫瘍の予防と管理が必要かもしれないことを暗示している。またこの論文をきっかけに更なる疑問が湧き、地域医療学の教授で鳥取県の先輩でもある小谷和彦先生を始めとする共著者の皆様にご指導いただきながら、同コホート研究で、他の脂質異常症を伴わない単独低 HDL-C 血症は脳卒中発症に寄与していないが、他の脂質異常症を伴う低 HDL-C 血症は脳卒中発症に寄与していることを示した(2)。また、高 HDL-C 血症が、女性において、脳出血発症を減少させることと関連していたことを示した(3)。また、同研究は、HDL-C 血症と脳卒中との関係において、発症と死亡を同時に扱っている点で非常に重要だ。また、今回は JMS コホート I 研究のデータを使用させて頂き、私自身としては医師6年目の時に一人診療所の佐治診療所で JMS コホート II 研究の症例登録をし、以後追跡調査に関わっている。その他の大学院の成果として、地域でもパソコン一つでできるシステムティックレビュー(SR)を学び身近な臨床疑問を解決中だ。電磁気誘導 vs 内視鏡誘導の栄養チューブ挿入の SR が Cochrane にタイトル登録されて、プロトコル査読中である。SR を体系的にまとめた最高峰である Cochrane ではタイトル登録されると一定の努力をすれば必ず出版までが約束されている。大腸内視鏡検査開始時の体位はどの体位が良いかという SR(4)、上部内視鏡前の咽頭麻酔はキシロカインビスカス vs スプレーでどちらが良いかという SR(5)を執筆した。また、先の Cochrane の SR のタイトル登録時に Cochrane の Upper GI の本部のある McMaster 大学に当時留学されておられた自治医科大学卒の宮城県の菅野武先生と出会って、上部内視鏡検査前のキシロカインビスカス vs スプレーの SR で丁寧なご指導を頂いた。様々な貴重な出会いに感謝し、支えて下さる指導医の先生方の丁寧なご指導で出版することができたが、今後は地域・住民にこれをどう還元していくかが更に重要だ。

## 【大学院卒業後】

自治医科大学の卒業生はジェネラルマインドを持って、分野を横断した幅広い範囲をカバーして実臨床に従事している。その実臨床の中で、専門医の先生にはない幅広い分野に渡る臨床疑問が生まれることが研究面における自治医科大学卒業生の強みである。今後は臨床面では消化器外科がしたいと考えているが、内科を中心とした地域医療をすることで、分野横断的な臨床疑問を持つことができている。大学院で、上記に親和性の強い疫学研究とSRを学ぶことにより、臨床疑問を解決する方法論を学ぶことができた。今後は、ジェネラルマインドに加えアカデミックジェネラリストの視点を持つことで、実臨床の疑問を解決していくとともに、今後更なる方法論を学んでそのメカニズムにも迫ることも重要だ。また、何か研究がしたいけど何をどうしたらいいのかわからないという卒業生のために協力して行きたい。何か研究をしたいけど何をどうしたらよいか分らない方、一緒に共同研究してください。SRをされたい方などは是非ご連絡をください。

【連絡先】 渡部 純 m06105jw@jichi.ac.jp

## 【論文】

1. Watanabe J, Kakehi E, Kotani K, Kayaba K, Nakamura Y, Ishikawa S. Metabolic syndrome is a risk factor for cancer mortality in the general Japanese population: the Jichi Medical School Cohort Study. *Diabetol Metab Syndr*. 2019;11:3. PMID: 30636976
2. Watanabe J, Kakehi E, Kotani K, Kayaba K, Nakamura Y, Ishikawa S. Isolated low levels of high-density lipoprotein cholesterol and stroke incidence: JMS Cohort Study. *J Clin Lab Anal*. 2019;e23087. PMID: 31742753
3. Watanabe J, Kakehi E, Kotani K, Kayaba K, Nakamura Y, Ishikawa S. High-Density Lipoprotein Cholesterol and Risk of Stroke Subtypes: Jichi Medical School Cohort Study. *Asia Pac J Public Health*. 2020;32(1):27-34. PMID: 31970995
4. Watanabe J, Park D, Kakehi E, Inoue K, Ishikawa S, Kataoka Y. Efficacy and safety of the starting position during colonoscopy: a systematic review and meta-analysis. *Endosc Int Open*. 2020;8(7):E848-E860. PMID: 32617389
5. Watanabe J, Ikegami Y, Tsuda A, Kakehi E, Kanno T, Ishikawa S, Kataoka Y. Lidocaine spray versus viscous lidocaine solution for pharyngeal local anesthesia in upper gastrointestinal endoscopy: systematic review and meta-analysis. *Dig Endosc*. 2020;10.1111/den.13775. PMID: 32573016



Figure 1: 大学院修了式 同期の中村晃久先生(左)と私(右)

### 地域医療オープン・ラボNews Letter原稿募集

地域医療オープン・ラボでは、自治医大の教員や卒業生の研究活動を学内外へ発信するために、「自治医科大学地域医療オープン・ラボNews Letter」を定期的に発行しています。

<http://www.jichi.ac.jp/openlab/newsletter/newsletter.html>

- ☆ 自治医大の教員や卒業生の研究活動をご紹介ください
- ☆ 自薦・他薦を問いません
- ☆ 連絡先：地域医療オープン・ラボ [openlabo@jichi.ac.jp](mailto:openlabo@jichi.ac.jp)

[発行] 自治医科大学大学院医学研究科  
地域医療オープンラボ運営委員会  
事務局 大学事務部学事課 〒329-0498 栃木県下野市薬師寺 3311-1  
TEL 0285-58-7477/FAX 0285-44-3625/e-mail [openlabo@jichi.ac.jp](mailto:openlabo@jichi.ac.jp)  
<https://grad.jichi.ac.jp/>